

# 終戦から70年 忘れてはいけない歴史



【米軍上陸後、洞窟から出てきた人たち】



【脚を負傷した少年】

沖繩戦は「鉄の暴風」とも表現されるように、日・米両軍の壮絶な地上戦が繰り広げられ、戦禍の中で20万余の貴い生命や多くの財産、文化財などが失われました。兵士のみならず一般住民を巻き込んだこの戦争は、戦闘による死傷にとどまらず凄惨な集団自決（集団強制死）にまで人々を追い込みました。痛ましい沖繩戦の爪痕は現在も県内各地に残っており、また人々の心の中にも「忌まわしい記憶」として深く刻まれています。

1945 (昭和20) 年							時期
10月	9月	8月	7月	6月	5月	4月	主な出来事
石川学園を三分し、城前小学校、宮森小学校、中等部を石川高等学校として分校し、それぞれの道を歩む。	石川市が美里村から分離、市制施行。 米軍政府の「地方行政緊急措置要綱」の公布に伴い、前原市と平安座市が誕生。	委員長に志喜屋孝信氏選出。 石川市長選挙・市議会選挙が行われて、横田英氏が選出され市長となる。 沖繩諮詢会発足。（委員15名選出） 米軍政府は石川市各キャンプの代表100余名を集めて沖繩諮詢会設立会議を開く。	ハンナ少佐等により東恩納に沖繩文化財陳列館（東恩納博物館）開設。 石川市でウルマ新報（現琉球新報）創刊。 石川学園中等部として、城前小学校内において開校。（現石川高校）	石川地区病院開設。（内科医・神村吉助、歯科医・小那覇全孝ほか） 前原に前原初等学校が開校。 民家を改修して仮診療所が設置される。	「石川学園」正式に開校。（後の城前小学校） 仲喜洲国民学校跡に高江洲初等学校が開校。	具志川ブスク強制集団死事件発生。 午前7時頃から津堅島全域は艦砲射撃を受ける。米軍津堅島南部及び南東部に上陸開始。 屋我次郎氏、米軍の任命により石川市長就任。 米軍、沖繩本島上陸。	

うるま市内の様子  
〔1945(昭和20)年〕1953(昭和28年)〕